

北海道浮魚ニュース

平成 25(2013)年度第 6 号

2013 年 7 月 1 日

地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部

釧路水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎道東太平洋マサバ・マイワシ漁期前調査結果

北辰丸(釧路水産試験場調査船)によって行われたマサバ・マイワシ漁期前調査の結果をお知らせします。

調査期間

2013 年 6 月 19 日～6 月 27 日

調査海域および調査点

道東～三陸沖合太平洋海域

(北緯 39 度 00 分～42 度 25 分、
東経 143 度 00 分～147 度 30 分
：親潮系冷水域および黒潮系暖水域)における 8 調査点 (図 1)。

調査方法

10 種類の目合 (22・25mm :
30 間切り各 1 反、29・37mm :
30 間切り各 4 反、48mm : 60 間
切り 2 反、55・63・72・82mm :
60 間切り各 1 反、182mm : 60 間
切り 1 5 反) の流し網を用いた
漁獲試験。

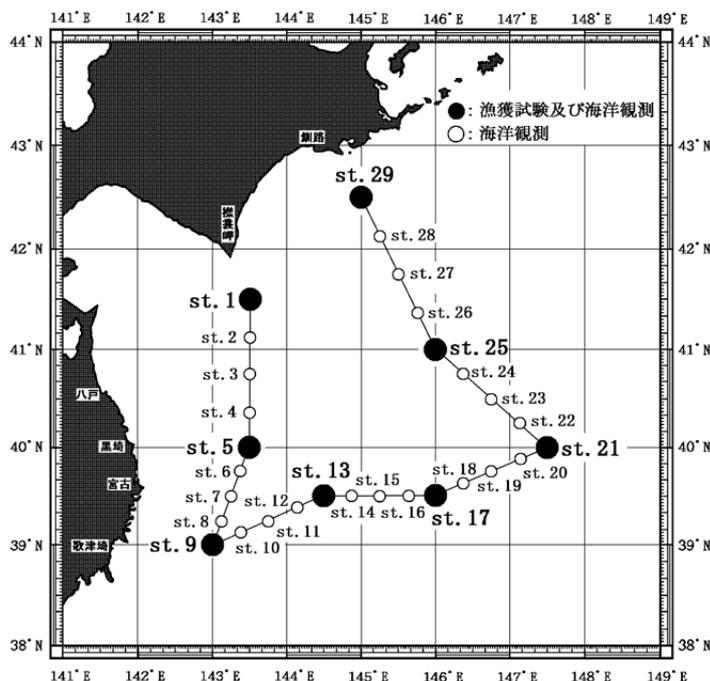


図1 漁獲試験調査点

調査結果

①漁獲試験を行った 7 調査点の表面水温は 10.8～20.0℃ (前年: 10.9～17.6 °C)、
50m 層は 1.3～10.9℃ (前年: 2.8～15.1℃)、100m 層水温は 1.4～9.5℃ (前年: 1.4
～11.4℃) でした (表 1)。

表1 水温および魚種別採集尾数

st.	1	5	9	13	17	21	25	29	合計
表面水温(°C)	10.8	16.6	15.0	17.0	20.0	18.1	16.6	14.2	
50m水温(°C)	1.3	8.6	9.2	9.8	10.9	2.5	9.8	4.4	
100m水温(°C)	1.8	6.0	7.6	7.5	9.5	4.0	5.5	1.4	
サバ類	196	356	623	246	157	631	813	237	3,259
マイワシ	1,013	4,441	10,386	43		28	7	21	15,939
カタクチイワシ	35					6	18	5	64
サンマ		34	52		4	15	57	12	174
スルメイカ		2	3	9	13	69	1	1	98
アカイカ				7	150				157

②調査点別の魚種別漁獲尾数（表1）および流し網調査1回当たりの漁獲尾数（CPUE）の経年変化（図2、4、6、8、10、11）ならびに漁獲試験で採集された漁獲物（図3、5、7、9）は以下のとおりです。

・サバ類(マサバ、ゴマサバ)

8調査点で157～813尾、合計3,295尾漁獲されました(表1)。

CPUEは407.4尾/回で、前年の92.0尾/回を上回り1994年以降では最も高い値を示しました(図2)。

しかし、全国の資源評価によれば、マサバの資源は低い水準にゴマサバの資源は高い水準の状態にあるものと思われます。

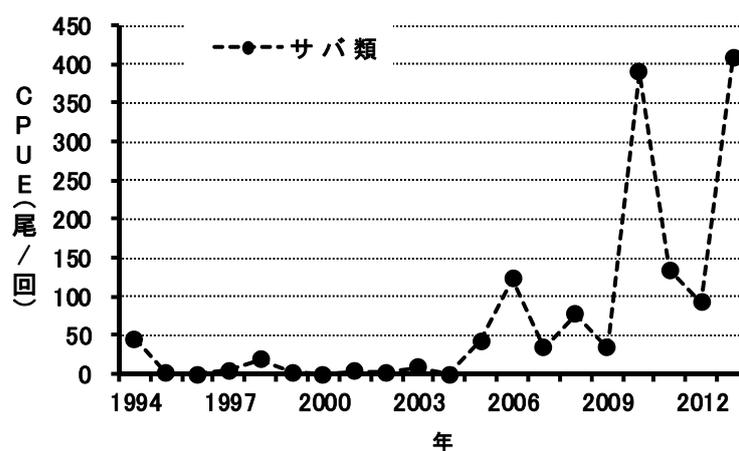


図2 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化

魚体は尾叉長15・22～42cm台で、26cm前後の個体が主体で、次いで32cm前後、35cm前後の順(図3)で、前年(主体:31～35cm台)より小型の個体が多く見られました。

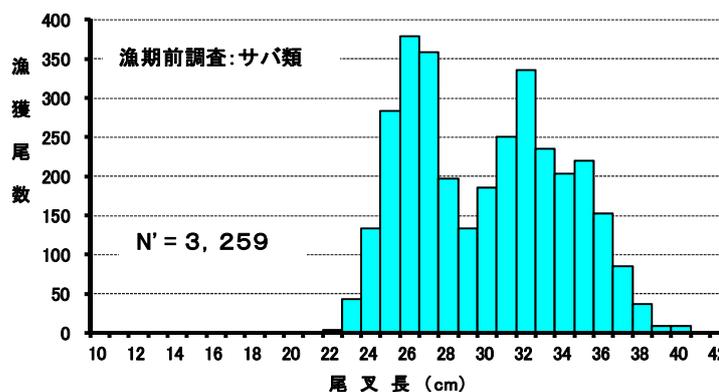


図3 サバ類の漁獲物体長組成

・マイワシ

7 調査点で 7~10,386 尾、合計 15,939 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 1,992.4 尾／回で、前年の 378.6 尾／回を上回り、1994 年以降では最も高い値を示しました（図 4）。

しかし、全国の資源評価によれば、資源水準は中位の状態にあるものと考えられます。

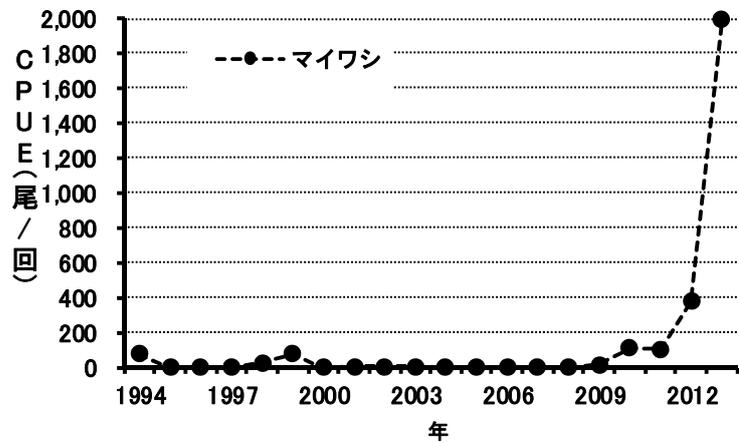


図4 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)経年変化

魚体は体長 14.0~23.0cm 台で、20cm 台の個体が主体で、次いで 17.5cm の順（図 5）で、前年（主体：19.0cm 台）より大型でした。

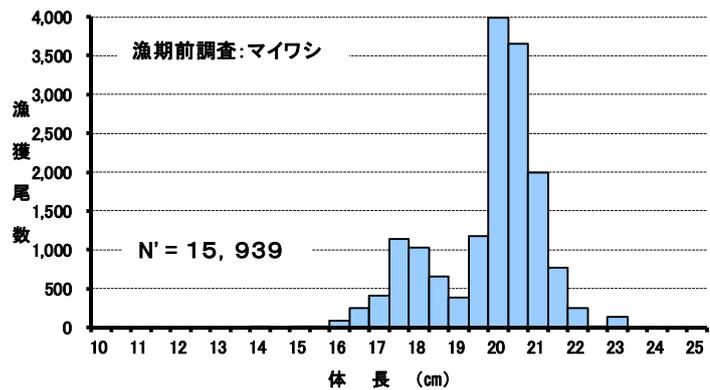


図5 マイワシの漁獲物体長組成

・カタクチイワシ

4 調査点で 5~35 尾、合計 64 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 8.0 尾／回で、前年の 131 尾／回を下回り、1994 年以降では 2008 年に次いで 2 番目に低い値を示しました（図 6）。

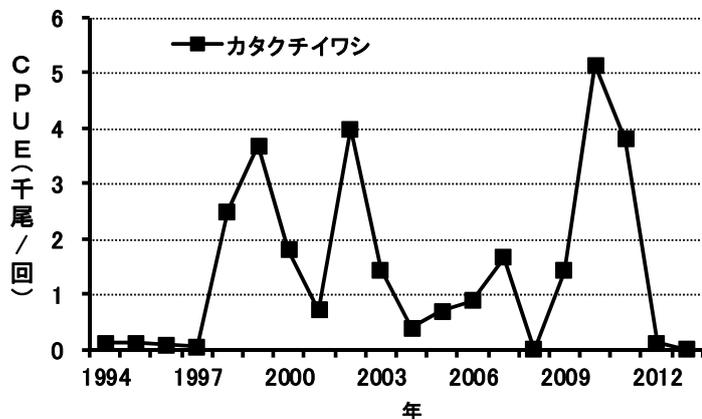


図6 調査1回当たり漁獲尾数(CPUE)の経年変化

魚体は体長 10.0・12.0～14.5cm 台で 13.0cm 台の個体が主体で（図 7）、前年（主体：12.5cm 台）より若干大型でした。

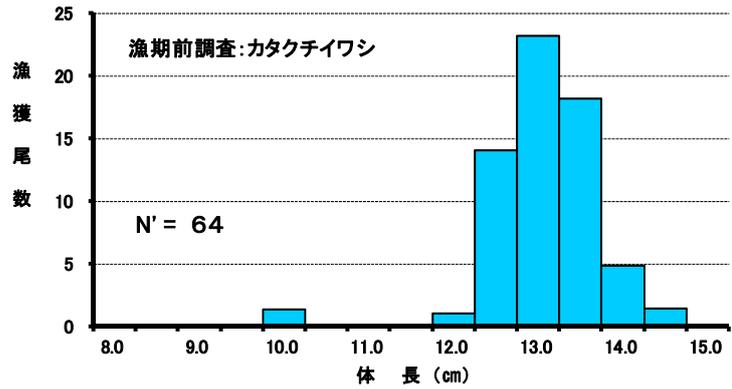


図 7 カタクチイワシの漁獲物体長組成

・サンマ

6 調査点で 4～57 尾、合計 174 尾漁獲されました（表 1）。

CPUE は 21.8 尾／回で、前年の 3.9 尾／回を上回りましたが、1994 年以降では 9 番目に低い値でした（図 8）。

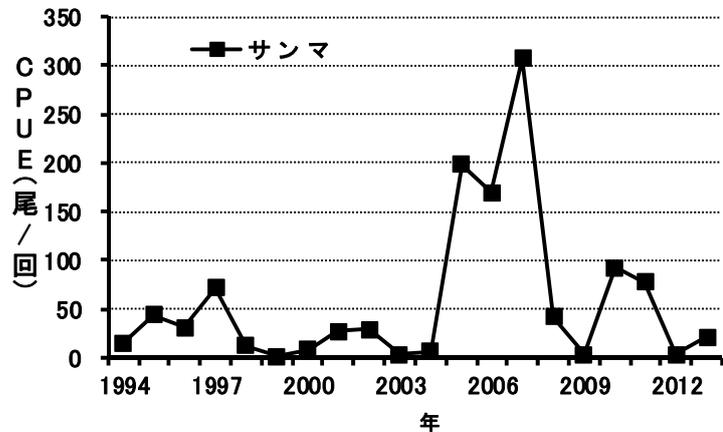


図 8 調査 1 回当たり漁獲尾数 (CPUE) の経年変化

魚体は肉体長 17・20～31 cm 台で、29～30cm 台の個体が主体で、次いで 22cm 台の順（図 9）で、前年（主体：29～31cm 台）より小型の個体が多く見られました。

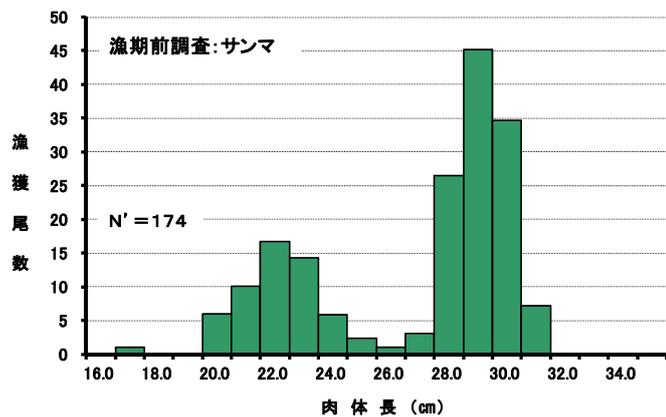


図 9 サンマの漁獲物肉体長組成

◎来る 7 月 29～31 日に、独立行政法人中央水産研究所（横浜市金沢区福浦）で長期漁海況予報会議が開催され、今回の調査結果を含めた各機関の資料を基に、漁況予報が発表される予定です。

（文責：道総研 水産研究本部 釧路水産試験場 調査研究部

直通電話：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）